

「コウノトリ育む農法」に 先進技術を積極導入 農業の未来の姿を追求

坪口農事未来研究所の取組

「未来の農業と環境を創造する」を理念に掲げ、「コウノトリ育む農法」による米作りを主体に環境創造型農業に取り組む「坪口農事未来研究所」。持続可能な安定した農業経営を目指し、多様な収益を確保できる事業にもあわせて取り組んでいます。

水稲栽培面積の3分の1となる約11haで6品種を「コウノトリ育む農法」で栽培。中でも、有機JAS認証を受けたほ場で育てた「コシヒカリ」や「いのちの壺」、「みどり豊」、「黒米」などは、高付加価値米の自社ブランド「非時(ときじく)」の米として販売しています。野菜類はほぼすべてを有機栽培。通年で花き類の生産、販売も行うほか、食用米を使った日本酒や甘酒の開発、ジュース製造などの6次産業化も積極的に推進しています。

法人化した2019年には、環境問題に取り組むアウトドアメーカーと提携し、ソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)事業をスタート。ほ場内に設置した5機のソーラーパネルからの売電により、安定収入につながっています。



自社ブランドの加工品

代表メッセージ

坪口農事未来研究所 代表取締役 平峰英子さん



「坪口農事未来研究所」という名が示すように、当社では未来の農業の姿を追い求め、環境に配慮した農業に取り組んでいます。

水稲事業においては、「コウノトリ育む農法」の栽培を拡大し、経営のバランスを考えながらですが、有機JAS認証面積も年々増やしてきました。未来の農業を考える上で必要な「農業におけるCO₂削減」の実証研究にも取り組んでいます。

思い切った投資を行ったソーラー

シェアリング事業では、売電収入以外にも提携企業のネットワークを通じて自社商品の販路や加工品開発の拡大につながっています。

食の生産者として安心・安全を最優先に「未来のために私たちができること」を一つ一つ実践していきたいと考えています。農業の未来を担う志を持ち、複合的な事業展開にチャレンジする意欲のある人を歓迎します。

働く先輩のインタビュー



黒葛(つづら)真吾さん
(2020年入社)

「コウノトリ育む農法」に取り組んでみたいと思い、「豊岡農業スクール」の研修を経て入社しました。水稲に加え有機野菜や花き類の栽培も担当し、栽培計画の作成から出荷まで責任をもって取り組んでいます。但馬地域では有機野菜の若手生産者のつながりが深く、一丸となって広めようという雰囲気があるのも心強いです。独立を視野に入っていますが、これから有機農産物をできるだけつくっていききたいと思っています。



ソーラーパネルの下でもしっかりと栽培

勘や経験に頼る農業からの脱却を目指し、スマート農業にも注力。営農支援システムやドローン、大型機械の自動操舵システム、米の乾燥調製を一元管理できるシステムなど、先進技術をいち早く導入し、少数精鋭のチームで生産性を向上させています。



【法人概要】

- 所在地／豊岡市三宅318-1
- 設立／2019年4月
- 従業員数／正社員1人 パート・アルバイト5人
- TEL／0796-26-0190
- HP／<https://tsuboguchi-agri.com/>

<受け入れについて>

書類選考と面接により、社員募集を行っています。条件等詳細は問い合わせを。

経営内容・品目

- 経営面積／
35ha、うち有機4.6ha(水稲、野菜、すべて有機JAS認証)
- 栽培品目／
水稲34ha(コシヒカリ、みどり豊、いのちの壺、ほむすめ舞、黒米、赤米)
野菜1ha(ニンジン、カボチャ、サツマイモなど)、黒大豆
花き(トルコギキョウ、菊など)、果樹(ブルーベリー)